

大分県大分市

【目指す中心市街地の都市像】

中心市街地活性化基本計画概要

【4期計画：令和5年4月～令和10年3月】

県都にふさわしい中心市街地の魅力が伸展するまちづくり
～住む人・訪れる人が幸せを感じる豊かで洗練されたまち～

【自治体の概要】 人口：477,584人(R3.12.31・住民基本台帳)、面積：502.39km²

中世以降、大友氏の時代に豊後府内と呼ばれるようになり、近世では、府内城を中心に城下町が建設され、現在の大分市の中心部となる。かつて路面電車が走っていた市道中央通り線は現在もバス路線が集中し、この路線を中心に様々な機能が集積し発展してきた。

【中心市街地の課題等】

○商業活力や賑わいの不十分さ

少子高齢化と人口減少に伴う市場の縮小やEC市場の規模拡大等による買い物環境の変化によって、中心商店街等を取り巻く環境は大きく変化している。

既存店舗の魅力向上の支援、新規出店を促す取組を充実させ、中心市街地の商業活力の向上と賑わいの創出を図る必要がある。

○来訪者や居住者の回遊性の停滞

中心市街地における人流は依然として改善しておらず、中心部全体において人々の多種多様なニーズに応じたサービスの提供を行い、各々の商店街等の魅力を発信することが求められている。

このため、ソフト・ハード両面からの都市機能を高めることで中心市街地の魅力を創出し、回遊性の向上に繋げる。

○居住者の減など社会情勢の変化に求められる対応策の検討

中心市街地の居住人口は、大分駅南土地地区画整理事業の進捗に併せて順調に増加してきたが、令和3年、はじめて減少に転じた。

今後も減少が続くと予想されることから、多世代が住みたくなるまちなかの環境整備が必要である。

【計画目標と数値】

| 目標 | 目標指標 | 基準値 (R3) | 推計値 (R9) | 目標値 (R9) |
|------------------------|----------------------|----------|----------|----------|
| ①伝統と革新の調和によるまちなか商業の活性化 | 空き店舗率 (%) | 9.0 | 10.5 | 4.6 |
| ②魅力的な都市空間の創出による回遊性の向上 | 中心市街地の歩行者通行量(土日計)(人) | 259,541 | 225,021 | 291,000 |
| ③まちなか居住の推進 | 中心市街地の居住人口(人/年) | 21,048 | 21,776 | 22,800 |

【中心市街地活性化の方針】

基本的な方針1【多種多様な人々で賑わう魅力あるまちなか商業拠点の形成】

中心市街地が持つ産業、人的資源を活かし、既存商店街の活性化、個店の魅力向上を図るとともに、来訪者の個店への来訪を促すためにも、子育て世代や高齢者、障がい者、外国人等多種多様な人々のニーズに対応できる様々な業種を展開させることにより、まちなか商業の活性化を目指す。

→目標：伝統と革新の調和によるまちなか商業の活性化【空き店舗率(%)】 全16事業

基本的な方針2【多くの人々が行き交い、多様なサービスが受けられる空間の創出】

回遊目的に資する行政機能や生活サービス機能の充実、人を中心として自転車や公共交通を含め回遊しやすくなる環境の充実、まちなかへのアクセス性の向上を図ることにより、歩行者通行量を中心市街地全体で拡大させることで、回遊性の向上を目指す。

→目標：魅力的な都市空間の創出による回遊性の向上【中心市街地の歩行者通行量(土日計)(人)】 全46事業

基本的な方針3【住みたくなるまちなかの環境整備】

生活サービス機能の充実や行政機能を集積、再構築することで、コンパクトで暮らしやすい安全・安心なまちづくりを推進するとともに、県都にふさわしい洗練された美しい都市空間を形成することで、住みたくなるまちなかづくりを目指す。

→目標：まちなか居住の推進【中心市街地の居住人口(人/年)】 全21事業

【前期計画目標と数値】

| 目標 | 目標指標 | 基準値(H28) | 目標値(R4) |
|-----------------------|-------------------------------|------------|------------|
| 伝統と革新の調和によるまちなか商業の活性化 | 空き店舗率(%) | 11.1% | 4.6% |
| 魅力的な都市空間の創出による回遊性の向上 | 中央町・府内町間を往来する歩行者通行量(土日計)(人) | 32,832人 | 37,000人 |
| | 中心市街地循環バス「大分きゃんぱす」年間利用者数(人/年) | 60,931人 | 65,000人 |
| 多様な都市ストックを活かした交流機会の拡大 | 主要文化交流施設年間利用者数(人/年) | 3,902,363人 | 4,180,000人 |

大分市中心市街地活性化基本計画の事業概要

【住みたくなるまちなかの環境整備】

①荷揚町小学校跡地複合公共施設整備事業

中心市街地のさらなる魅力創造を図るため、小学校の適正配置に伴い閉校となった学校跡地を活用し、市民コミュニティ機能及び災害対策本部室やおおいた消防指令センターなどの防災機能を備えた複合公共施設の整備を行う。令和6年4月の供用開始を予定している。

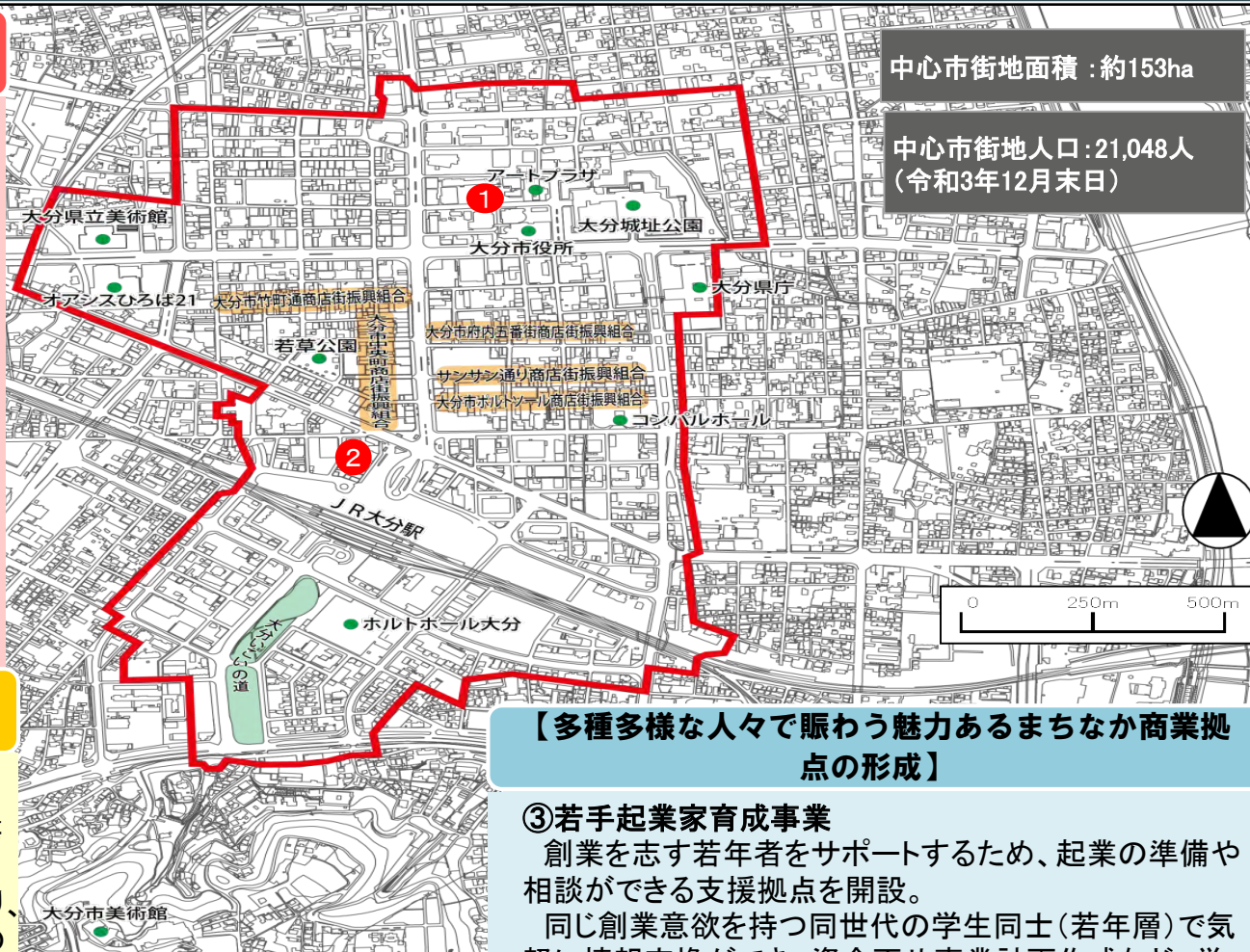
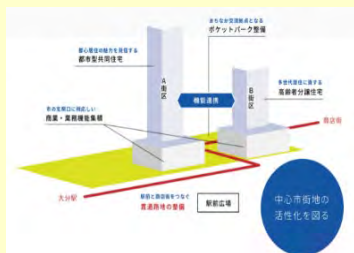


【多くの人々が行き交い、多様なサービスが受けられる空間の創出】

②末広町一丁目地区第一種市街地再開発事業

組合施行により、商業・業務施設、共同住宅、駐車場等の整備を行う。

立地に適した土地の合理的かつ健全な高度利用を図り、また、地区防災性の向上、都心居住の促進、都市機能の更新を図るとともに、中心市街地のにぎわい創出および活性化を図る。



中心市街地面積：約153ha

中心市街地人口：21,048人
(令和3年12月末日)



【多種多様な人々で賑わう魅力あるまちなか商業拠点の形成】

③若手起業家育成事業

創業を志す若年者をサポートするため、起業の準備や相談ができる支援拠点を開設。

同じ創業意欲を持つ同世代の学生同士(若年層)で気軽に情報交換ができ、資金面や事業計画作成など、学生特有の問題やその他ニーズに応じて、各分野の創業者や企業経営者とマッチングさせ、経営・起業相談ができる場所を提供することでにぎわい創出を図る。

中心市街地全体での事業展開 ③

